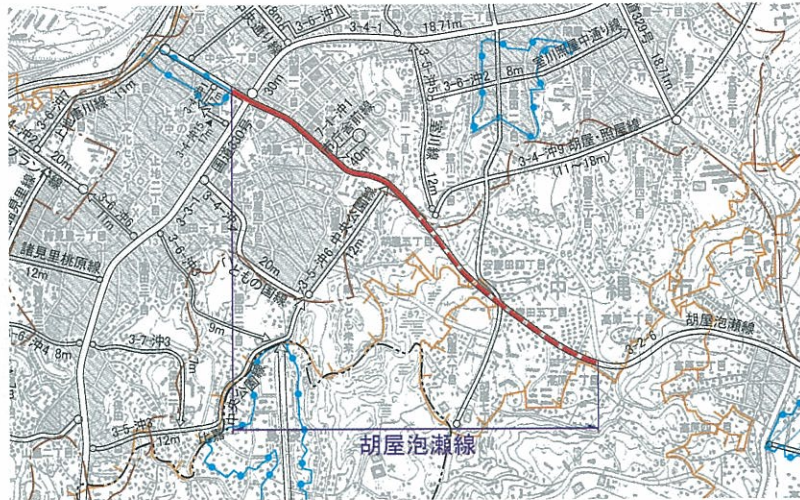
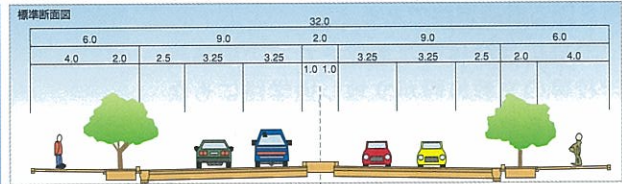


# 胡屋泡瀬線

当該道路は、沖縄市中心部と東部地域を結ぶ主要な東西幹線道路であるが、交通混雑が著しい。そのため、市中心部へのアクセス機能強化や東部海浜開発促進に資するよう、現況2車線を4車線道路として拡幅整備し、市の東西間を結ぶ幹線道路網の形成と市街地の活性化を図る。



街路事業	
箇所名	沖縄市中心部～高原
全体計画	延長2,220m、幅員32m
事業期間	平成17年度～平成26年度（予定）



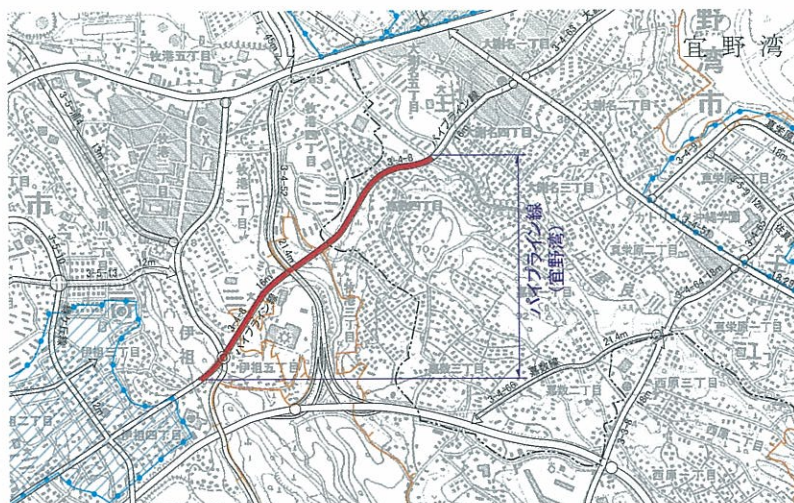
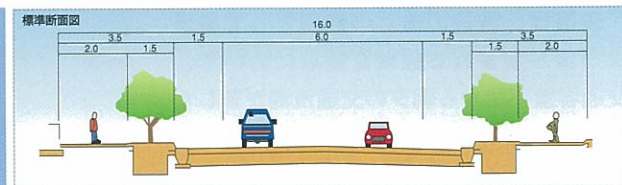
沖縄県の街路事業

# パイプライン線(宜野湾)

当該路線は主要地方道那覇糸満線を起点とし、浦添市と宜野湾市を結ぶ国道58号と国道330号の機能を補完する街路である。沿線には小学校、高等学校が近接していることから、通学時の歩行者の安全確保と快適な歩道空間の形成が必要である。また、慢性化している国道58号と国道330号の渋滞緩和を図るためにも早期の整備が望まれる。



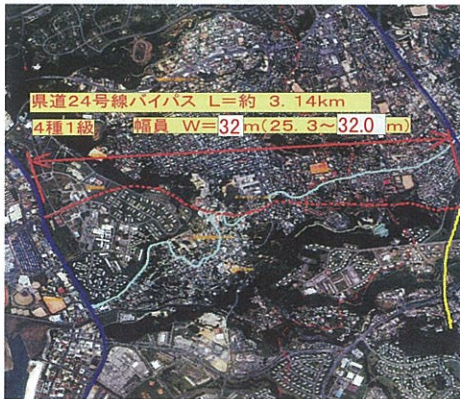
街路事業	
箇所名	浦添市伊祖～宜野湾市嘉数
全体計画	延長1,760m、幅員16m
事業期間	平成14年度～平成23年度（予定）



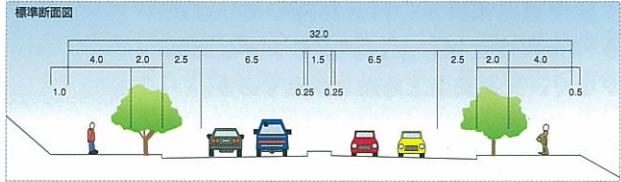
# 県道24号線バイパス

県道24号線バイパスは、沖縄市から北谷町中心部を東西に横断し国道58号へ至る幹線道路として、平成13年度に都市計画決定された。現道は、起伏が激しい地形部を蛇行しているうえに幅員も狭小であり、歩車道区分が明確でない部分が多く交通も多いため危険であり、早急な整備が必要である。

当該路線の整備により、安全で快適な歩行空間、ゆとりある都市空間を形成し地域の活性化を図る。



街路事業	
箇所名	北谷町字桑江～沖縄市南桃原
全体計画	延長1,720m、幅員32m
事業期間	平成15年度～平成21年度（予定）



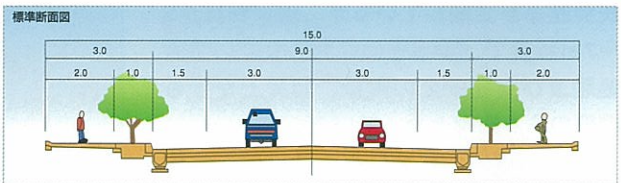
# 城通り線

当該路線は、名護市の中心部を東西に通る幹線街路で、沿道には市役所や公園などの公共施設がある。そのため通勤通学、買い物客等の歩行者が多く自動車交通量も多い。さらに、現道には十分な歩道幅員が無く危険な状況である。

当該路線を整備することにより、安全で快適な歩行空間を確保し、良好な生活環境を創出する。



街路事業	
箇所名	名護市宮里
全体計画	延長620m、幅員15m
事業期間	平成12年度～平成20年度（予定）



# 伊差川線

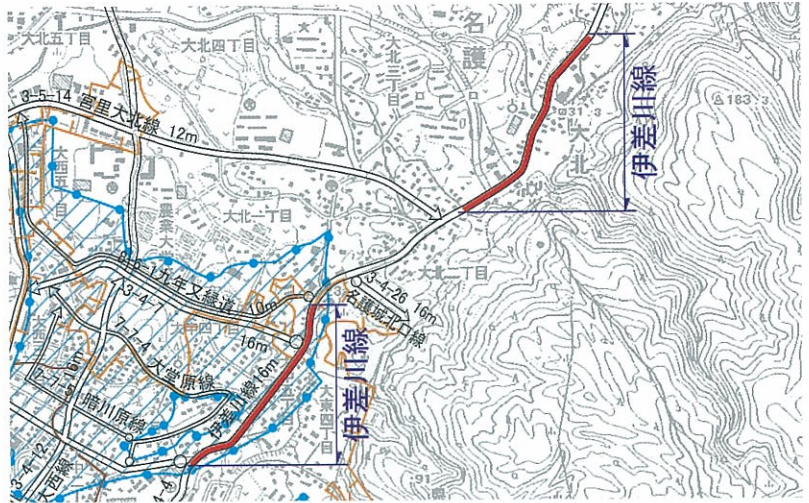
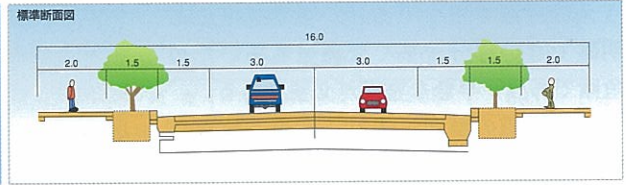
当該路線は、名護市の中心市街地から南北に縦断する幹線道路であり、また、中南部方面から名護市を経て国頭村、今帰仁村方面を連絡する道路としての役割も担っている。

現況道路幅員が、バス路線でありながら12m程度と狭い上、歩道も十分な空間がなく、交通安全上危険な状況である。

そのため、円滑な道路網形成と安全で快適な歩行空間を確保するため、拡幅整備を行う。



街路事業	
箇所名	名護市大東～伊差川
全体計画	延長1,910m、幅員16m
事業期間	平成12年度～平成25年度（予定）



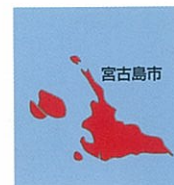
沖縄県の街路事業

# 市場通り線

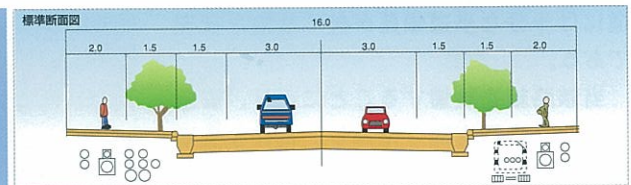
宮古島市の既成市街地は戦後の混乱期に形成されたものであり、道路等の都市基盤整備が遅れている状況にある。

沿線には公設市場、また、近隣には、市役所、小学校、市民会館等が立地しているが、現況幅員が5～7m程度で、歩車道の区別もなく、交通処理及び交通安全の確保、防災上からも問題のある路線となっている。

当該路線は、宮古島市の中心部に位置していることから早急に整備を行い、円滑な道路網の形成及び安全で快適な歩行空間を創出し、観光振興及び市街地の活性化を図る。



街路事業	
箇所名	宮古島市平良西里～平良東仲宗根
全体計画	延長500m、幅員16m
事業期間	平成14年度～平成25年度（予定）



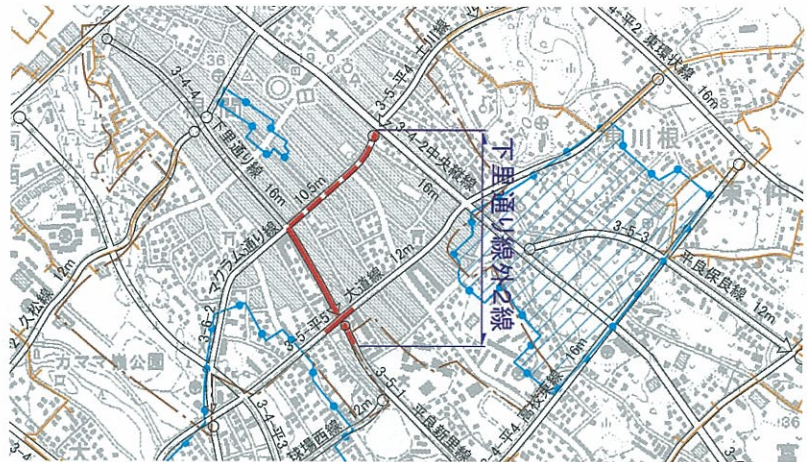
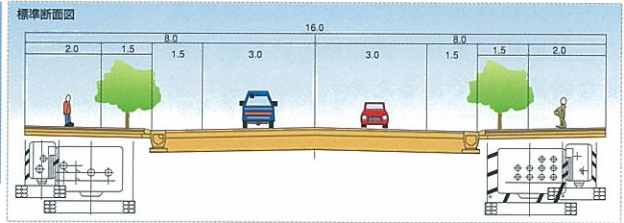
# 下里通り線外2線

宮古島の既成市街地は戦後の混乱期に形成されたものであり、道路等の都市基盤整備が遅れている状況にある。当該道路近隣には、市役所、小中高校等が立地しているが、現況幅員が9m程度で、歩車道の区別もなく、交通処理及び交通安全の確保、防災上からも問題のある路線となっている。

当該路線は、宮古島の中心部に位置していることから早急に整備を行い、円滑な道路網の形成及び安全で快適な歩行空間を創出し、観光振興及び市街地の活性化を図る。



街路事業	
箇所名	宮古島市平良下里
全体計画	延長850m、幅員16m
事業期間	平成13年度～平成26年度（予定）



# 真栄里新川線

当該路線は、石垣市の中心市街地を東西に横断する幹線街路である。沿線は商店街を形成しており、八重山地方の商業の中心となっている。しかしながら、現道は幅員が狭小で歩車道の区別もなく、交通安全上問題のある路線となっている。

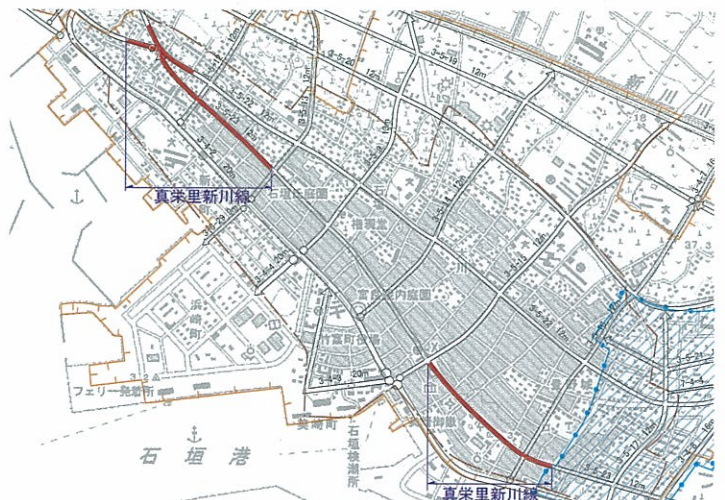
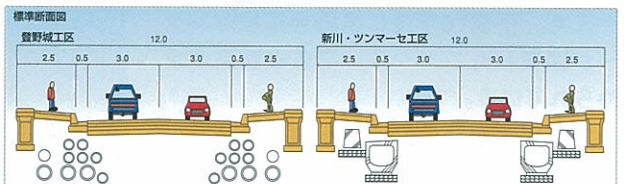
当該路線を整備することにより、安全で快適な歩行空間を形成するとともに、中心市街地における機能的な道路網の形成を図る。



(完成予想図)



街路事業	
箇所名	石垣市新川～登野城
全体計画	延長1,723m、幅員12m
事業期間	平成7年度～平成21年度（予定）



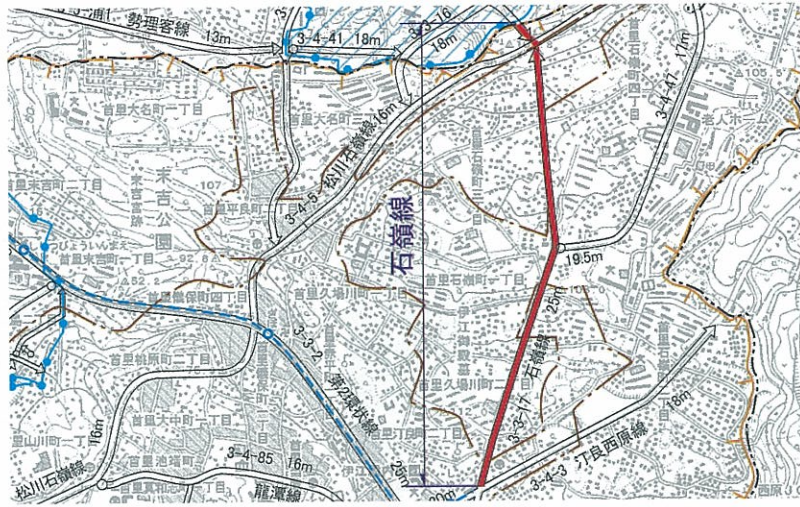
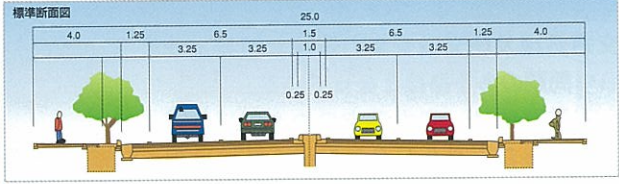
# 石嶺線

石嶺線は、第二環状線から汀良西原線と交差し、松川石嶺線を連結する延長2.2kmの幹線道路である。石嶺市営住宅に隣接し、現況幅員が5~7mと狭く歩道も未整備である。また、都市モノレールをはじめとする公共交通の基盤施設であり、周辺市町村を結ぶ重要な幹線道路であるため、周辺環境に配慮した整備を図る必要がある。

当該路線がモノレール開業に伴うバス路線の再編にとって重要な路線となっていることから、鳥堀北交差点から久場川団地入口間等の狭小でバスの通行が困難な箇所を優先的に整備を行う。



街路事業	
箇所名	那覇市首里汀良町~那覇市首里石嶺町
全体計画	延長1,701m、幅員25m(4車線)
事業期間	平成7年度~平成24年度(予定)



沖縄県の街路事業

# 石嶺福祉センター線

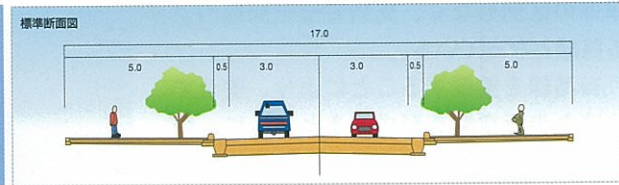
当路線は、石嶺市営住宅、石嶺小・中学校、首里厚生園等の公共施設が隣接していますが、地区幹線道路がなく地域生活においても多大な不便を被っている。

また、平成15年度に県総合福祉センターが開業したことから、早急な整備が求められている。

地域の集中発生交通を石嶺線及び松川石嶺線を連結することにより処理し、交通の円滑化及び歩行者空間の整備を図る。



街路事業	
箇所名	那覇市首里石嶺町
全体計画	延長1,280m、幅員17~19.5m
事業期間	平成10年度~平成20年度(予定)



石嶺福祉センター線イメージ図



終点(交差点)より~始点方向

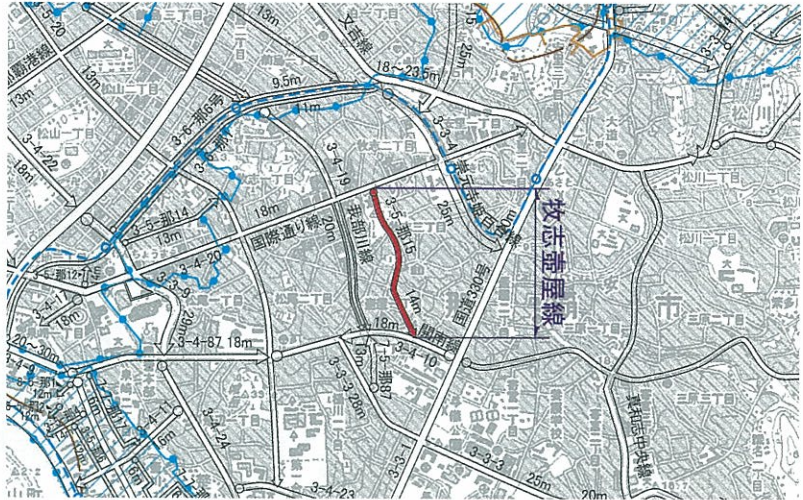
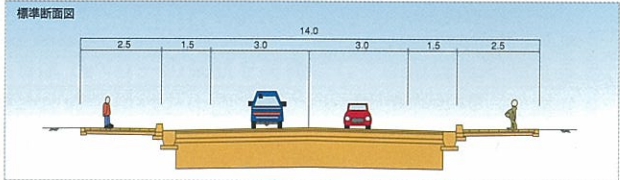
# 牧志壺屋線

本路線は、那覇市の中心市街地に位置し、県道39号線（国際通り）を起点に、桜坂十字路を經由して市道壺屋松尾線（都市計画道路開南線）と連結する延長590mの幹線道路である。現道は、幅員が4～5.5mで狭隘な歩行者専用道路、一方通行の道路で歩道もない利便性及び安全性の悪い道となっている。

平成11年に策定された「那覇市中心市街地活性化基本計画」の中で、中心市街地の整備改善のための事業として位置付けられ、国際通りや周辺既存道路の交通負荷の軽減、中心市街地の活性化及び歩道の整備により快適な歩行者空間を形成し、バリアフリー化を図る。



街路事業	
箇所名	那覇市牧志～壺屋
全体計画	延長590m、幅員14～20.95m(2車線)
事業期間	平成6年度～平成20年度（予定）



# 首里金城地区

首里金城地区は、那覇市の中心市街地より東へ4kmの小高い台地上に、首里城を包み込むように位置します。琉球王府の所在地として長く政治文化の中心地域であったため、首里城をはじめ周辺地域に多くの歴史的・文化的遺産が残されている、いにしえのかおり豊かな街並みである。

当該地区は丘陵地帯であり、また重要な史跡・伝統的建造物が分布するために、道路や下水道の生活基盤整備が思うように進められず、住み良い移住環境にあるとは必ずしもいえない状況にある。一方で、近年の団地開発や住宅の建て替えなどにより、まちの姿が徐々に変わりつつあることから、「生活基盤の整備」「文化財の保全」「景観面での保全修景」など、多方面からの環境整備が急務となっている。



街路事業	
箇所名	那覇市首里金城町
全体計画	延長2,260m、幅員2～6m
事業期間	平成6年度～平成24年度（予定）

